

神聖なる師に魅了される瞬間

60年間近く敬虔で信心深い帰依者であった、タミルナードゥ州出身のラニ スップラマニアム女史（訳注：2012年12月1日逝去）が、バガヴァン ババ様のもとを訪れたのは、早くも1950年のことでした。現在85歳で（2008年4月時点）、バガヴァンは親しみを込めて彼女のことを「ラニ マー」と呼ばれていました。彼女の人生は、往年のきらめく体験の宝石箱でした。真摯な霊性求道者である彼女は、現在、プッタパルティに在住し、深い信念、洞察力、そして信仰心を持つ熱心な帰依者たちのために、彼女を高めた数々の思い出を分かち合ってください。これは彼女の素晴らしい回想録の第5部です。第1部～第4部を読まれる方は下記をクリックして下さい。

[第1部](#) [第2部](#) [第3部](#) [第4部](#)

ラニ マー女史へのインタビューより

第5部



私はあるときプラシャーンティ ニラヤムで、ひとりの婦人と会話に興じていました。彼女は自分がプッタパルティに来る理由は健康であるためだと言いました。ところが、彼女は自分が受け取ったものに対して大きな不満を抱いていました。私は言いました。

「あなたはここで受け取っているものが何かわかっていません！ スワミはあなたに健康、つまり霊的な健康を与えてくださっているのです！」

「どういう意味ですか？」と彼女は尋ねました。私は言いました。

「スワミはこの場所を『アシュラマ』とは呼ばれませんでした。『アシュラマ』は文字通り『シュラマ』、すなわち『努力』の要らない場所（ア・シュラマ）を意味していません。スワミは（この場所を）『プラシャーンティ ニラヤム』と名付けられました。なぜなら、ここは平安を受け取ることのできる神の住処だからです。スワミはすべての理解に勝る、神聖な愛の源に由来する「平安」を約束してくださいました。この平安はどのような状況にも動じることのない永続的な平安です。この平安は、誰かがあなたに優しくしてくれる時に幸せになり、そうでない時に不幸せになるといった類の一時的な平安ではありません。

同様の真実が、我々の古来の聖典に記されています。『バガヴァッド ギター』の中でクリシュナ神は「対極を超越した者こそが私の真の帰依者である」とおっしゃいました。それは、善い待遇と悪い待遇、名誉と不名誉といった二元性によって影響されない人のことです。人はこれら（二元）のことに注意を払うべきではありません。それらは迷妄の領域に存在しているからです。スワミはおっしゃいます。

「あなた方は皆、眠っています。私はあなた方を目覚めさせるために来ました！」

かつて、スワミはおっしゃいました。

「ラニ マー、私に言わせれば問題など存在していません。問題とは認識の誤りです。あなたは非真実であるものを見ています。あなたは問題を越えたところに存在しているのですが、その事実気づいていません。なぜなら、あなたはまだその意識の段階にまで達していないからです。そのためあなたは自分が身体であるという白日夢に耽っているのです。すべての体験はあなたの身体意識が唯一の原因です。あなたはすべての体験を身体のレベルで判断しています。スワミは身体意識に関する問題を抱えている者たちを助けるために降臨したのではありません。明日には何らかの病気や惨事が起こるかもしれません。しかし、それらはあなたの身体意識に属することです」

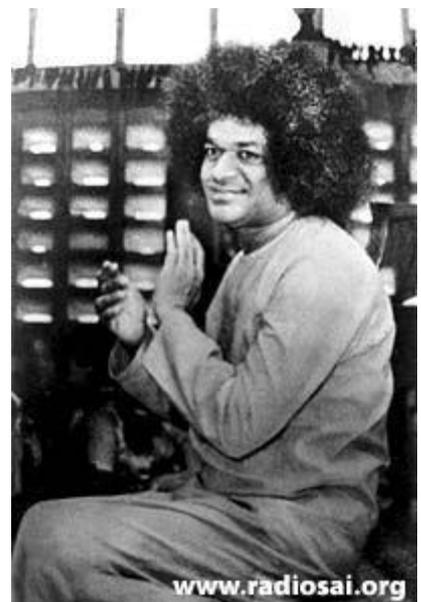
最も甘美な勝利

それは迷妄であり、サンスクリット語ではマヤーやモーハと呼ばれています。スワミが暗示しておられるこの錯覚、あるいは執着とは何でしょうか？ それは妄想、無知以外の何ものでもありません。その（迷妄の）幸せや悲しみは身体に関係しています。スワミはこの無知を根絶するために降臨されました。スワミはアヴァターラ プルシャ（神の化身）であって、他のグル（霊性の師）たちのようなお方ではありません。

かつて、スワミは私を含む帰依者のあるグループにお話しになりました。

「プッタパーティに来れば、あなたがとても幸せになると考えてはなりません。むしろあなたの心は非常にかき乱されるでしょう。しかし、ここで勝利を手に入れば、世界中どこへ行ってもあなたを乱すものは決してないでしょう」

「プッタパーティはクルクシェートラの戦場です。クリシュナ神は戦場で『バガヴァッド ギター』の不滅のメッセージを授けました。なぜなら人生は戦場だからです。戦場で勝利すれば何を得るでしょう？ 平安です！ 同様にあなたが本当は何者であるか、世界とは実は何なのか、という英知から得られる平等心によってここでの困難を超越す



るなら、あなたは私がそれを与えるために降臨した永続する平安を受け取るでしょう」

これが、スワミがここを「プラシャーンティ ニラヤム」、すなわち「永遠の平安の住処」と名づけられた理由です。

何年も前に、私の娘の義母（姑）はプラシャーンティ ニラヤムで安住することを望んでいました。彼女は私たちと出会ってから帰依者になりました。その後のスワミとのインタビューに彼女も偶然居合わせました。その折、彼女はプラシャーンティ ニラヤムに住みたいという自分の願いをスワミに伝えました。するとスワミはお尋ねになりました。

「なぜここに住みたいのですか？ あなたには息子が二人います。彼らと暮しなさい。ここでは誰があなたの面倒を見てくれるのですか？」 彼女は答えました。

「スワミ、私はここで平安を得られるのです」

しかし、スワミはおっしゃいました。

「いいえ、いいえ！ ここに平安はありません。平安はどこにあるかわかりますか？ それは自分自身の内にあるのです。プラシャーンティ ニラヤムは、あなたがその平安に正しく到達するために苦闘するには役立つでしょう。苦闘することも同様にここでは必要です。一旦プラシャーンティ ニラヤムに来れば、あなたの人生の何もかもが自動的に解決するというわけではありません。英知を使って、あなた自身が努力し続けなければなりません。スワミはその英知を授けます。しかし、あなたは自分でそれを実践しなければなりません。学校や大学へ行けば教師はあなたに教えてくれますが、その教師があなたのために実践（勉強）しないのと同じことです」

スワミは聖なる師であることを知ってください。スワミのご降臨の目的は、取るに足りないものを与えることではありません。私たちが何を欲しようとも、スワミはそれを与えてくださるでしょう。かつてスワミはおっしゃいました。

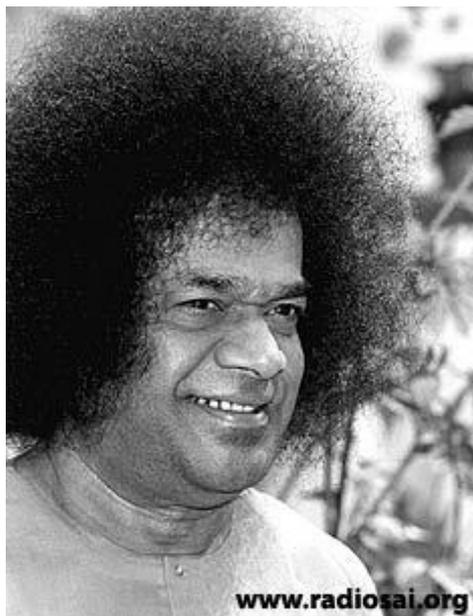
「ラニ マー、私はあなたが望むものは何でも与えましょう。ただし、それがあなたに平安をもたらすことはありません。もし平安を望むのであれば、平安そのものを願いなさい。他のことは私に任せなさい。『神様、私は永続的な平安が欲しいのです。他のものは何も欲しくありません』と言いなさい。それが全託です。真の全託とは、平安以外の何も望まないことです。あなたは非常に多くのものを追い求めてきました。お金、地位、権力などです。なぜなら、あなたはそれらが平安をもたらすと考えていたからです。しかし、それらを持っていてもあなたは不安になります。心はかき乱されます。これはグニャーナ（英知）が欠けているからです」

シュリ サティヤ サイ アシュラムではなく、プラシャーンティ ニラヤム

このような理由から、スワミはプッタパルティのアシュラムを「シュリ サティヤ サイ ババ アシュラム」ではなく「プラシャーンティ ニラヤム（至高の平安の住処）」と

呼んでいるとおっしゃいます。努力、すなわちシュラマをしなければなりません。スワミは人生の浮き沈みに効果的に立ち向かうように助け、導くことができるだけです。しなければならぬことは、スワミに導いてくださるようお願いすることだけです。スワミはかつて、これは困難なことになると言われ、私に警告され、付け加えられました。

「恐れてはなりません。私にこう祈りなさい。『スワミ、私は失敗するかもしれませんが、辛すぎるテスト（試練）は与えないでください！』」（どうしてスワミは私の最も深い内面の祈りをご存知なのでしょう？ 私はそのことを声に出して言葉で伝えてはいませんでした！）



「なぜあなたは苦闘をそんなに恐れているのですか？ それは間違っています。私があなたに挑戦を与えるなら、私はその挑戦に立ち向かう強さと英知も与えています。あなたは言うべきです。『スワミ、あなたが望まれるように私をお試してください。しかしどうか私に勝利をお与えください』と。戦いに挑むとき、あなたは何を求めますか？ 銃や刀剣などが欲しいと言いますか？ あなたはただ『勝利が欲しい！』と言うでしょう！ ですからその平安を求めなさい」

プッタパーティにその平安を求めて来たのであれば、その平安を求めなさい。しかし世帯主（家長）や他の何かであることは、時おり私たちを悩ませます。そして、私たちはそれらの困難によってスワミに助けを求めるよう仕向けられるのです。時おりスワミはそれら（困難）を軽くするためにすぐに応えてくださいますが、応えてくださらないときもあります。

しかしながら、常にダルマや正義に適うものを求めなさい。ダルマに一致しないものを求めても、スワミはまったく応じてくださいません。ダルマの範囲内の要求でさえも、その要求が私たちを高めることか、そうでないかを見極めておられます。なぜなら、スワミはグル（霊性の師）だからです。

かつて、あるインタビューでスワミは「あなた方が願う良いものは何でも与えましょう」とおっしゃいました。しかし、スワミは私たちの願いを叶える適切な時を決められます。スワミは私たち各自にとって何が善いかをご存知であり、私たちの過去、未来、現在をご存知だからです。霊的な道において忍耐は主要な必要条件です。ですから私たちは、スワミが私たちの願いを叶えてくださるのを忍耐強く待つべきなのです。

これに関して、私には直接の体験があります。私の夫はプッタパーティに滞在することを大変嫌がっていました。夫はこの場所に親しみを感じることができず、アシラム

を去りたがっていました。ある訪問中、(プッタパーティを発つ前日) ぎりぎりの土壇場の夕方になって、私はプッタパーティを離れるつもりはない、もし夫が望むなら夫だけは出発して子供たちと一緒に暮らせば良い、と告げました。私は一晩中、夫がプッタパーティに滞在してスワミのオーラを吸収すれば素晴らしいことだろう、と祈り続けました。もしスワミが夫を引き留めたいのならスワミにはそれができるはずだ、と。私はその問題を完全にスワミに明け渡したのです。翌朝、まったく思いがけないことに、夫はプッタパーティに滞在するとことに決めたと言いました！ 夫は最期の瞬間まで、このアシュラムに滞在しました。

神に結果を委ねる

『バガヴァッド ギター』の中で、人間には結果ではなく行為(活動)に対する権利のみがある、と述べられています。結果は神の手の内にあり、私たちが結果をコントロールすることはできません。ですから正しい行いとは神に結果を委ねることです。そうすれば、神は適切な時にその行為の果実を与えてくださいます。

スワミが伝えられたメッセージはこうです。「プッタパーティに来ると、あなたは多くの人に会うでしょう。幾人かは善い人で、他の人たちは悪い人でしょう。ある日は滞在するのに善い場所を得て、次の日には居心地の悪い場所を得るかもしれません。しかし、こういったすべてに影響されることがあってはなりません。あなたは内なる旅のためにアシュラムに来ました。(自分の)外側に平安を探してはなりません。それ(平安)はあなたの内に在ります。ですから内を見なさい。プッタパーティには自由に(惜しみなく)入手できる平安があると考えているのであれば、それはあなたがその趣旨を理解していなかったことを意味します。これはグニャーナ、あなたが知るべき英知です」



心(マインド)は時おり私たちにたぶらかしますが、英知を得るのに役立つこともありません。それゆえ、私たちは心(マインド)を訓練しなければなりません。これはカルマ ヨーガ(霊的な行動の道)の中で言及されていることです。心(マインド)を克服した後、人はグニャーナ ヨーガ(英知の道)へ、その後はバクティ ヨーガ(帰依の道)へと進むことができます。それまでは、私たちの帰依は完成されません。英知を修得するときのみ、帰依心は完結します。このことは『バガヴァッド ギター』の中でも指摘されています。グニャーナ(英知)と共に、ディャーナ(瞑想)を行わなければなりません。そしてディャーナ(瞑想)と共に、パラ ティヤガム(行為の果実の放棄)を育まなければなりません。

時折、私たちは善い行いをするかもしれませんが、それが好ましくない結果をもたらすこともあります。しかし、善くも悪くもその結果を受け入れるべきです。私たちは勝利を得るために仕事に従事しているわけではありません。勝利と敗北を超越するために働いているのです。神は、私たちが好ましくない結果を得て、悲しみに暮れて落胆するのを見たいとは望んでおられません。一方で神は私たちにテスト（試練）を受けるよう望んでおられますが、私たちが苦しむことは望んでおられないのです。

意識の目覚め

あるとき、ホワイトフィールドでスワミがおっしゃいました。

「ラニ マー、私は内なるグルを目覚めさせるために来ました。（自分の）外側のグルに頼ってはなりません。ですから私にこう祈りなさい。『スワミ、どうか私の内なるグルになってください。私が何をすべきか内側からご教示ください。私はその通りに行います』そうすれば、私はあなた自身の内側から必ずあなたを導きます」

そこには「私に」や「私の」があってはなりません。それは完全にスワミのものになるべきです。「私」や「私のもの」という感情が生じると、即座に無知の領域に入ってしまう。

スワミはおっしゃいます。

「好き嫌いがあってはなりません。ラーガ ドウウエーシャ（怒りと憎しみ）のデュオは超越すべきです。愛すべき人がどうかに関わりなく、すべての人を愛さなければなりません。その人は身体意識があるために無知から行動しているということを理解するべきです。それゆえアートマ（魂）の原理を理解していない人として、その相手を憐れみなさい。慈愛を持ち、そのような人々のために祈らなければなりません。スワミがすべての存在の内蔵者であることを理解するべきです。それゆえ何人も傷つけてはなりません。そうして初めて、人はスワミを理解していると言うことができます。それまでは、スワミを理解していると言うことはできません」

私たちは人々を比較して判断するべきではありません。そうすることで、私たちは悲しみを手に入れています。そのような道を辿っていれば、スワミでさえ助けてくださらないでしょう。間違った道を辿っているからです。かつて、私はスワミに言いました。

「スワミ、私は善い帰依者になりたいのです」 スワミはおっしゃいました。

「それはとてもシンプルなことです。必要なのは私に服従することだけです。あなたを救うことのできる書物や経典はありません。グルのみが、霊的な道を通してあなたを導くことができるのです」

グルへの服従は霊性求道者にとって非常に重要な特質です。これ（グルへの服従）は、人をとても（霊的に）高い境地へと導くことができます。それ（スワミへの服従）は、

何らかの問題においてはスワミに服従し、その他の問題は自分自身で決断するといったものであってはなりません。スワミへの全託は完全なものでなければなりません。このような全託を実践すれば、スワミは解脱を約束してくださっています。解脱とは、私たちの身体意識と自我からの解放以外の何ものでもありません。「私」と「私のもの」という感覚は自我の性質です。

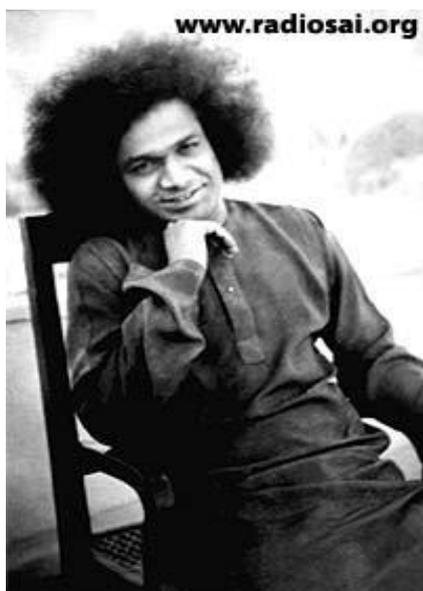
バジャン レッスン

スワミがプラシャーンティ ニラヤムに移られて2年後、私たちはまだ旧マンディールにいて、バジャンのためにプラシャーンティ ニラヤムに通っていました。ある行事のバジャンの最中、スワミは私たちが歌うのを止められました。私はスワミのごく間近に座っていました。スワミは私をごらんになり、お尋ねになりました。

「あなたが歌いますか？」 私は肯定的に返答し、カルナティック（南インドの古典音楽）は知らないのにヒンドゥースターニー（北インドの古典音楽）だけなら歌えます、と付け加えました。スワミはティヤーガラージャ キールタナ（カルナティック音楽が基盤）だけを好んでおられると思っていたからです。しかしスワミはおっしゃいました。

「そのようなことは関係ありません。あなたはバジャンを歌いなさい」

そこで、私はその瞬間、心に浮かんだバジャンを歌い始めました。そのときは気づきませんでした。後から思い返してみると、スワミは私にそのバジャンからある重要で深遠なレッスンを受け取ってほしかったのだと気づきました。そのバジャンの意味はスワミが私に示したかったアドワイタ（不二一元）の原理を強調していたのです。



翌日もバジャン会に行くと、スワミは再度、私に同じバジャンを歌うよう望まれました。三日目も変わることはありませんでした。私はそのバジャンの意味に注意を払っていなかったため、同じバジャンを歌うことに少しフラストレーション（不満）を感じていました。そこで、私は皆の前でスワミに尋ねました。

「スワミ、私は数多くのバジャンを知っています。何か他の曲を歌いましょうか？」

スワミはおっしゃいました。

「必要ありません！ 私はこのバジャンだけをあなたに歌ってほしいのです」

私たちは決して自分本位に（一方的に）スワミを理解することはできません。スワミご自身が自らの正体を私たちに顕さなければなりません。スワミを理解しようとするのは、砂浜で砂の粒を数えるようなものなのです。

数日後、スワミはご自分のお部屋の掃除をするよう、数人の婦人たちを上階に呼ばれました。私たち5人が上がって行き、私が掃除で忙しくしていると、スワミは「ラーマ ナーマ ジャパナーレ・・・」と、私が数日前にスワミから歌うように言われた同じバジャンを歌われていました。私は少し驚いて、独りごとを言い始めました。

「このバジャンはもう十分なのに…どうしてスワミは同じバジャンで私をうんざりさせられるの？」

私は振り返ってスワミを見ました。私の顔にはクエスチョン マーク「？」が付いていたのでしょ。スワミはおっしゃいました。

「あなたはなぜ私が同じバジャンを歌うのか不思議に思っていますね。そうでしょう？ 私はこのバジャンを何度も何度も歌います。このバジャンには英知の本質が含まれているからです。あなたがこの英知を消化できれば、それ以上のものは何も必要ありません。あなたは靈的ゴールに到達するでしょ」

私は、そのときまで自分がこのバジャンの意味に注意を払っていなかったことに気づきました。

私たちがティヤーガラージャ キールタナを歌う際には、ティヤーガラージャの心的状態に入り込まねばなりません。そうしてのみティヤーガラージャの価値がわかるのです。(バジャンの) 意味はターラ (リズム) がどれほど善いかよりも重要です！ そのキールタナの意味はこのようなものです。

「ラーマの御名を常に唱えなさい、おお人よ！ あなたが呼吸をする限り、この家はあなたのものである！ ジャブ ラグ ヤハッ スワース タヌ ビータル、タブ ラグ ヤハジャグ アパナーレ あなたが呼吸をする限り、あなたは『私のお金』『私の家』と言うだろう。ひとたび呼吸が止まるなら、あなたのもものは何もない！」

それからスワミはおっしゃいました。

「母、父、子供たち、親戚などは、単にあなた自身の想像、カルパナにすぎません。全ての創造物は単なる想像にすぎないのです。それは、実在しないあなたの心の単なる投影です。それは妄想です。すべての関係は存在していますが、絶対的に（他に比べるものがなく単独の価値基準で）存在しているのではなく、相対的に（他に比較するものがある価値基準で）存在しているだけです。あなた方はただ、ある役柄を演じているだけなのです」

カルパナとは、あなたがある役を想像し、その役を演じているという意味です。それは真実ではありません。その歌が先に進むと、

「あなたは親類縁者から離れなければならない。ジューティ ジャガット、カルパナサーリー、アーキル ヤー ジャグ サプナー レーイ！ 結末は、それはただの夢にすぎない」となります。結末とは、死後に人がそれを悟るという意味ではありません。私はそのことを理解するのに時間を要しました。スワミはおっしゃいました。

「人生が夢であることを悟るとき、あなたは白昼夢から目覚めるでしょ」

夢は常に見られるものではありません。目覚めれば、夢はもはや存在しません。

同様に、私たちが自らの真我に目覚めれば、夢は存在することを止めます。スワミはおっしゃっています。

「あなたの真我を目覚めさせれば、あなたを悩ませている世俗（世界）は存在することを止めます」

この歌を私が完全に理解するには、かなりの時間を要しました。今はどこでも話すように頼まれれば、この歌を繰り返し暗唱します。これは、私がプッタパーティを訪れて2、3年後にスワミが教えてくださったことの神髄です。私は1950年にここへ来ました。ですから既に半世紀以上にもなります。1954年かその頃に、私はこの歌を歌わなければなりません。内に向かい、それを完全に真に理解するために、多くのサーダナ（霊的努力）を要しました。

私たちの問題の簡単な解決策



何年も前にインタビューでスワミはおっしゃいました。

「ラニ マー、あなたのレベルに下りて来て、あなたの問題を理解することは私にとって何の問題もありません。なぜなら私には問題はないからです。しかし、私にはあなたの問題はまったく理解できません。なぜなら、実際に問題など存在していないからです！」

私は当時このことを全く理解していませんでした。それでスワミはこの歌（バジャン）を通して、本当の意味を授けてくださったのです。私の責務は何だったのでしょうか？ それ（そのバジャンの意味）を深く考えることでした。スワミは私におっしゃいました。

「深く真剣に考えなさい。あなたはもうその本質（真髄）を得ています」私はそのバジャンの意味を深く考えておらず、問題について考え続けていました。ですからスワミはお手紙に書いて下さったのです。「ラニ マー、あなたは問題を得ています」と。

私からすれば問題ですが、スワミにとっては問題ではありません。覚えておきましょう。スワミに問題はありません！ 危機とは私たちが作り出しているものであり、私たちが自分で解決しなければなりません。『バガヴァッド ギター』は記しています。

「問題の原因はあなたである。あなたは自分でそこから脱する方法を見つけねばならない。他の誰かが、グル（霊性の師）でさえも、それをしてくれるわけではない」

ですから、スワミはおっしゃいました。

「あなたは問題のことを考え続けています。だからこそ、私はあなたを助けることが

できないのです。問題のことを考えるのを止めれば、私はあなたを助けることができます。あなたが問題を忘れるとき、あなたの心をしっかりと私に固定しなさい。私の名前を絶え間なく唱え続け、私とコンタクトをとりなさい！ 神の御名は、あなたから神に向けて放たれた矢のようなものです。どのようにしてスワミとコンタクトをとるのでしょうか？ 神の名前を唱え続けることです」

神のためだけに歌う

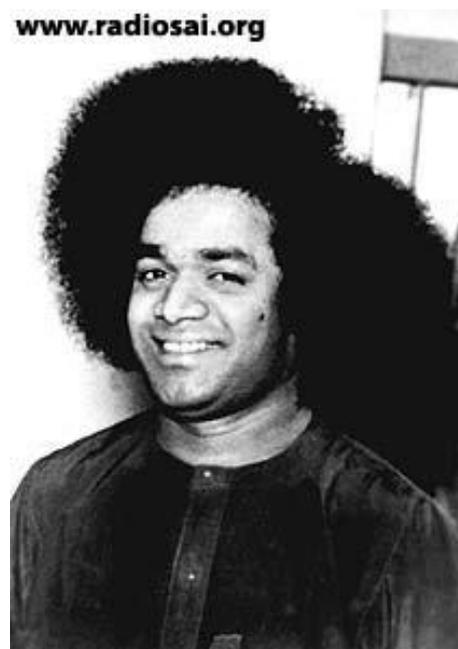
私はよくデリーに出かけて行き、休暇の間、姉のカマラ サーラティの家に滞在していました。姉はラーマクリシュナ・マート（僧団）の近くに住んでいました。最初の訪問後、スワミはサットサング（善い仲間）と共にいるようにとおっしゃいました。私たちはどのようにすれば良いかスワミに尋ねました。スワミはギターの勉強会や同様の活動に参加するようにおっしゃいました。私たちはスワミにラーマクリシュナ・マートに参加し続けても良いかどうかを尋ねました。当時、スワミは偉大な人物だとは思っていましたが、スワミが神ご自身であるとはわからなかったのです。

ですから、私たちはスワミが承認してくださるかどうか確信がありませんでした。しかし、スワミはおっしゃいました。

「はい。そこはとても善い場所です。ラーマクリシュナ ミッションに行きなさい！ 行って、すべてのスタディーサークルと会合に参加しなさい」

そこには定例のギターとウパニシャッドのクラスがあり、私たちは真摯に参加していました。ホーリーマザーやシュリ ラーマクリシュナの誕生祭のような行事の期間中、彼らは多数の聴衆を前にステージの上で歌う、善いバジャン シンガーを数人必要としていました。そこで姉が言いました。「ラニ マーがバジャンを知っているので、もし彼女に歌ってほしいようなら私が彼女に頼んでみましょう」

私はそのとき、偶然そこに居合わせました。私はこれらの行事の一つでミーラー、スーラダース等のバジャンを数曲歌いました。その後、お祭があるたびに歌ってほしいと定期的に招待されるようになりました。公的な儀式（催事）でしたので、人々は私の才能を知るようになりました。それで、彼らは様々なイベント、誕生祭などに私を呼び、そこで歌うように頼まれたのです。私は自分のハーモニウムを持参して、これらのイベントで歌っていました。私はこのことをとても純粋に行っていました。（姉の）カマラ サーラティが一人でプッタパーティを訪れた際、スワミはインタビューで姉にお尋ねになりました。



「ラニ マーに、自己実現（真我の悟り）か、あるいは名声と評判か、どちらが欲しいのかを尋ねなさい。もし神聖な真我を実現したいのであれば、彼女は公共の場で歌うことを止めて、自分のプージャ ルーム（祈りの部屋）で神のためだけに歌わなくてはなりません。私は彼女があらゆる所に行っているのを知っています」

スワミはデリーにいらっしゃらないのに、どうしてご存知なのでしょう？ スワミは私たちに神の遍在を証明してくださっています。私たちの行動は何もかもご存知なのです！ 私たちはスワミが遍在であることを知りませんでした。私たちが祈るときのみ、スワミは遍在であると思っていたのです！ スワミの遍在に対する私の理解は限定されたものでした。スワミが私の内なる真我であり、どんな想い、どんな言葉、どんな行いにも終日気づいておられることを知らなかったのです。スワミは私が何をしているかをご存知です。スワミに知られずして、私はどんなことも行うことはできません。

あなたがそのことに気づいていれば、とても慎重に注意深くなることでしょう。スワミがあなたの行う一切をご存じであるとわかれば、スワミが身体的にその場におられない時にしている多くのことを、あなたは行うでしょうか？ いいえ、しないででしょう。あなたといざこざのあった特定の人に対しても、あなたはとても丁寧に話すでしょう。「スワミがご覧になっている。礼儀正しくしよう」と思うでしょう。スワミが私たちに育ててほしいと望んでおられたのはこの「気づき」です。それを育まなければなりません。簡単なことではないでしょう。それは粉碎機を通す穀物のような拷問の（苦痛を与える）道です。それはヒマラヤ登山のようなものです。それゆえスワミはおっしゃったのです。「彼女（ラニ マー）が何を欲しているのか尋ねなさい。名声と評判が欲しいのなら、どこへでも好きな場所に行って歌ってかまいません。しかし、真我を実現したいのなら、外出するのを止めて自宅の聖堂で神のためだけに歌うべきです」

このメッセージを受け取った後、私は外出するのを止めました。

ある日、マリーニ女史という人が電話をかけてきて、私に歌って欲しいと言いました。私は言いました。

「すみません。私のグルの許可がありません」しかし、彼女は言いました。

「あなたは公衆の目前で歌うのではなく、尼僧たちのためだけに歌うのです」

私は歌うことができるかどうかわからないので、スワミに祈り、その件について考えなければならぬと言いました。マリーニ女史は私が歌うべきだと強く主張しました。

私はそれについて考え、祈りました。何かが私に告げました。それが尼僧たちのためなら歌うことはできるが、その後はこれ以上歌ってはいけない、と。私はそれを明確にしなければならぬでした。そこには尼僧たちが集まっており、スワミが私にラーマクリシュナ・マート（僧団）のサットサンダ（善い仲間）に出席し続けるようおっしゃっていたので、私はそこへ行きました。ラーマ クリシュナと、彼の妻、シャラダのマートは多くのことを授けてくれました。ですから私には彼らに恩を返す義務がありました。従って、そのような態度で、それが従順かどうかはわかりませんが、私は行きました。

その決断はダルマに適っていると感じたのです。それは評判を得るためではありませんでした。名声や評判のためではありません。このイベントの後、私は完全に（公衆の目前で歌うことを）止めました。私の人気が無くなるまでは（私が忘れ去られるまでは）歌いませんでした。スワミは絶えず経過を見守っておられます。なぜなら、私たちはスワミに導きを求めているからです。

スワミはかつて、私におっしゃいました。

「私はすべての人を導いているわけではありません。それ（導き）を求める者だけを導いています。あなたの場合、どんなことでも、些細なことから大きなことに至るまで、私に導くよう願ったから導いています。[私はスワミにこのマヤー（迷妄）の世俗生活に関することさえ尋ねていました。あれこれを料理しましょうか…等] それゆえ、私はどんなことにも干渉し、あなたを導いているのです」

私が歌うことをスワミが止めさせた理由に関して、私は少しの間傷ついていました。結局のところ、私は古典音楽さえ歌わずにバジャンだけを歌っていました。私は随分前に（神以外のために歌うことを）止めました。私は聖者ティヤーガラージャを思い出しました。歌うために王宮に招かれた際、ティヤーガラージャは（王のために歌うのを断り）自分は神のためだけに歌うと言いました。当時、私はスワミを理解していませんでした。別にラジオ番組のようなことをしているわけではないのに…とっていました。しかし、それから深く考え、神のためだけに生きなければならないと悟りました。人は「私」や「私のもの」の領域に属しているものを放棄しなければならないのです。

「私」と「私のもの」を放棄すれば、人生はとても楽になる

私たちは旧マンディールにいました。宿舎の準備が整うと、スワミは彼のご使命の手伝いをしているすべての永住者たちに部屋を割り当てられました。しかし、私たちはまだ時おり訪れていた訪問者に過ぎませんでした。当時はスワミご自身が部屋を割り当てていらっしゃいました！ 私たちが到着してスワミにご報告すると、スワミが利用可能な部屋を割り当てられるのです。特に行事（催し物）の期間中には利用可能な部屋はほとんどなく、幾つかの家族か、別の人たちと一緒に部屋を割り当てられました。

私たちは約8人から10人で（同室の）小さな部屋にいました。お互いに必要なものを提供し合い、すべてを分かち合って順応しなければなりません。これらの部屋が利用できることよりも前に、そのこと



(他の家族と順応すること)が、更に難しいことでした。スワミは順応することを学ばせるために、私たちに様々な段階を経験させられます。あなたは状況に応じて必要なものを制限することができますか？ これは霊的進化に要求されることなのです。私たちは決して不平を言いませんでした。なぜなら、スワミが私たちに強さ、受容、幸せを与えてくださったからです。内側ではまったく悲しむことはありませんでした。今、私は自分自身に問いかけています。「それらすべての困難を喜んで経験することを可能にしたものは、いったい何だったのだろうか？」と。

ある行事の際、数日後に私たちはプッタパーティを発たなければなりませんでしたが。当時はいつ出発するかスワミにご報告しなければなりませんでしたが。それはダシャラー祭の期間中であり、スワミご自身が祝祭の企画進行に携わっておられたので、ダシャラー祭前の1か月間はすべてのインタビューを取り止めておられました。帰依者たちはお手伝いに立候補しましたが、すべてはスワミの直接の監督下にありました。ですからその時、スワミはインタビューを与えることができなかったのです。

私はダシャラー祭の前に発ちたかったので、スワミにお手紙を書いて伝えました。

「スワミ、私は発ちますのでご挨拶申し上げます」

私はカストゥーリ教授を通じてそれ(手紙)を送りました。その手紙を受けて、スワミは教授に伝えられました。

「ラニ マーに、彼女が発つ前に私は会わなければならないと伝えなさい。インタビュー ルームに呼ぶことはできません。他の人々が、私が彼女にインタビューを与えたと思うからです。ですから病院に来るように言いなさい。私が訪問で病院へ行きましょう」

当時はとても小規模だった総合病院(ジェネラル・ホスピタル)まで行かなければなりませんでしたが。スワミは「ラニ マーは妹と一緒に来ることができます」とおっしゃったので、私たち姉妹は約束の日に静かにその病院へ行き、スワミを待ちました。スワミはまっすぐ私たちのところに来られ、私たちを外科室へ連れて行かれました。その時の会話をすべて思い出すことはできませんが、これだけはとても鮮明に覚えています。私はずっと悩んでいたあることを、スワミに尋ねたのです。

「スワミ、あなたは皆に宿泊用のお部屋を割り当てられていますが、私はまだ自分の部屋を頂いていません。ここに来るたびに毎回、他の誰かと一緒に滞在するのは困難です。私にお部屋を割り当てて頂けませんか？」スワミはおっしゃいました。

「ダメです。私はここでの宿泊用の部屋をあなたに与えるつもりはありません！ あなたの部屋はありません」

もしかすると、私は何か過ちを犯していて、そのため部屋を与えられるに値しないのではないかと思いました。それからスワミはおっしゃいました。

「あなたは何を訓練しているかわかりますか？ それは『貴方』と『貴方のもの』という感覚です。私が仮にあなたに部屋を与えると、あなたはそれを『私の部屋』だと考え

始めるでしょう。私はあなたに下落するのではなく、向上してほしいのです。ですからあなたに数多くの部屋を当てがいました。一度は小さな部屋に4人で滞在し、あなたは外まで水を汲みに行かなければなりませんでした。他の行事の最中には、チンチョーリー（旧藩王国）のマハーラーニ（藩王女）の部屋でとても快適でした。あなたは大きな部屋か小さな部屋かで不平を言うことは一度もありませんでした。あなたは幸せに滞在し、すべては神のものである、と自分自身に言い聞かせていました」

スワミは「すべての場所は神のものである」という考えを私の心に宿してくださいました。それゆえ私は不平を言わなかったのです。しかし、スワミが私にはっきりと約束してくださったことが一つありました。

「あなたがここに来る時はいつでも、ここでの滞在が外側のどんな問題によっても邪魔されることがないように私が取り計らいましょう」

一度、スワミは私たちにガレージ（車庫）に当てがわれました。スワミのお車の背後にシルディ ババのラタム（馬車）があり、ガレージには四隅のスペースだけしか残っていませんでした。その四隅の一角で調理をし、他のスペースで眠りました。

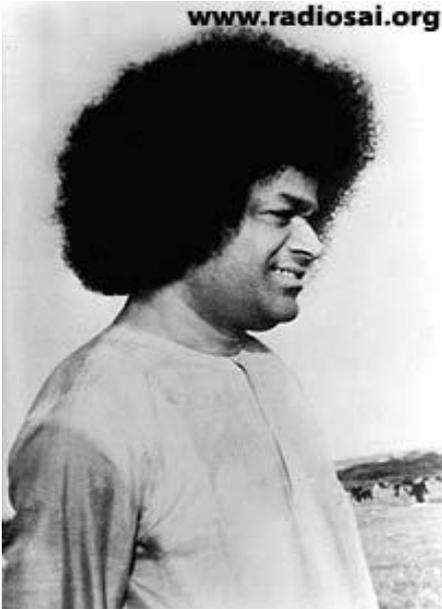
そのことで私たちが気分を害することはありませんでした。自らを惨めに思うこともなく、すべてうまくやり遂げました。これに関して、私はスワミに感謝しなければなりません。スワミは私たちに受容の力とその内にある喜びをくださいました。この受容の力は内側から生じなければならないことを実証し、スワミがこれを引き出す道具となってくださったのです。スワミは私たちに受容の力を与えてくださいました。なぜなら、私たちはスワミのためにそこへ行っており、スワミは私たちに平安を与えたいと望まれたからです。スワミは（自分の）外側の平安は与えてくださいませんでした。

私たちは遭遇した困難（苦境）のすべてに順応しましたが、スワミは溢れんばかりの内なる平安を与えてくださいました。今、当時のことを振り返りますと、それらの困難に遭遇した後でさえ、どれほど自分が幸せであったかを思い出します。スワミがなさったことはすべて、私のためであったと実感しています。あなたがスワミのために生きるのなら、スワミはあなたの思い、言葉、行動のすべての面倒を見てくださいます。仮に、それが困難であるとあなたが感じているのであれば、スワミに伝えてください。「スワミ、私はそれをととても困難に感じています」と。スワミは必ず助けてくださるでしょう。

沈黙という言語を話すこと

決して「私はこの仕事を成し遂げることができない」などと考えないでください。そのように考えれば、あなたは身体レベルまで落ちてしまいます。「私」という意識は自我（エゴ）です。「私」は存在しません。「神」のみが存在します。スワミが私たちの内側から（仕事を）なさいます。これは私の体験ですが、私が自分で問題を解決する必要が

あると考える時は、いつも、決してその問題は解決しませんでした。しかし、私がスワミに問題を委ね、「あなたが行為者です、私は単なる道具です」と言いますと、すべてがうまく働き始めるのです。私はまだ悟りの高い境地には達していません。



誰かがあなたを理由もなく非難しても、仕返しをするべきではありません。内側では傷ついて苦しまなければならなくても、外側では平静を保つべきです。「沈黙は靈的求道者の言語である」と言われます。私たちは全員が求道者です。帰依者とは「バクタ」のことです。スワミが私たちを「バクタ」と呼ばれないのはこの理由からです。かつてスワミは私たちに、この集会の中で誰一人として帰依者と呼ばれ得ないため、私たちに「アートマ スワループラーラ」（神聖なるアートマの化身である皆さん）と呼びかけるのだとおっしゃいました。

「しかしながら、ここにいる皆さん各自はその真実を知らないかもしれませんが、アートマ スワルーパ（魂の化身、アートマの化身）なのです。帰依者と呼ばれることはできません。なぜなら『バガヴァッド ギター』第 12 章に記されている帰依者の特質を身につけていないからです。その特質とは「対極の二元性を超越し、(一時的な) この世の真の性質を認識している者」です」

それゆえスワミは「話をしてはいけません」とおっしゃいます。私たちは他人についてさえ話すべきではありません。何年も前にスワミはおっしゃいました。

「あなたは自分自身に集中するためだけにここへ来たのです。他の誰かがどのような行動をしているかについて心配すべきではありません。彼らはすべて私の子供たちであり、一人ひとりが自分自身の巡礼の旅を始めているのです。幾人かは靈的に進歩しているでしょう。他の者たちは成長プロセスの中にいます。彼らはストレスを感じているために無礼であり、可哀想な者たちなのです！ 彼らは平静(落ち着き)を維持するために、全員もがき苦しんでいるのです」

ですから怒りの瞬間には彼らは無礼な態度をとるかもしれません。時おり、幾人かのボランティアたちは不親切な行動をとるかもしれません。彼らが穏やかに優しく話せば、誰も彼らの言うことを聞かないでしょう。だからそのように振る舞うのです。ですからこの場所で規律を維持するために、そのように振る舞うことが必要なのです。しかし、ある人がなぜ無礼な態度を取ったのかを気にするべきではありません。それはあなたが干渉することではありません。

神を愛しているなら、神のために生きるか、この世のために生きるか、決心せよ

すべては迷妄であることを明白にすべきです。「アサトーマー サッドガマヤー」、これはどういう意味でしょうか？ それは「非真より真実へ私たちをお導きください」という意味です。私たちはこのマントラを毎日唱えています、意味を理解しているのでしょうか？ 単に唱えるだけでは何の役にも立ちません。日常生活の中で応用しなければなりません。この吟唱の御教えを日常生活の中で実践するのは非常に困難です。少数の人によってしか実践されていません。誠実に、神以外のものは何も欲しない人たちだけが、唯一これらの御教えを日常生活の中で実践している人たちです。

グルの御教えを吸収するのは非常に難しいことですが、スワミはかつて、私たちにお話してくださいました。

「それがとても難しいと感じているなら、それはあなたが早く進歩しているということです」

グルは私たちをゴールに近づかせるため、非常に多くの試練を受けさせます。それは大海に近づいているようなものです。海に近づくとつれ、波のうなる音は段々と大きくなって聞こえてきます。ですからもしあなたが神を欲しているのなら、スワミがあなたに与えられる試練を受け入れなさい。さもなければ、もし世俗を楽しみたいのなら、正直になって、スワミにそのように言いなさい。

善良で、高潔な靈性求道者となり、その願望を達成しなさい。欲しいものは何であれ、あなたが十分満足のいくようにスワミが取り計らってくださいませ。あなたが神に願うものは何でも与えてくださるでしょう。『バガヴァッド ギター』の中で、人には到達しなければならない四つの目的があるとされています。「ダルマ (正義)」「アルタ (富)」「カーマ (欲)」そして「モークシャ (解脱)」です。正直になって、神に伝えなさい。「あなたが私に課されたテストを受けることができません。私はあなたを愛しています。あなたに十分な信仰心を抱いています。でも私は世俗が欲しいのです。あなたのために生きることはできません」と。まず自分自身の真我に対して正直でありなさい。スワミはかつて、おっしゃいました。

「あなたがプッタパーティに来ることでインスピレーション (靈感) が得られないなら、ここに来てはなりません。バガヴァンはプッタパーティだけに限定されません。スワミは全宇宙の主です。インスピレーションが得られるところであればどこへでも、そこへ行きなさい」



サイ ラム。

第6部へ続く . . .

出典：http://media.radiosai.org/journals/Vol_06/01AUG08/14-h2h_special.htm